

組合員数108,048人
支部数 943
読者数 66,650人
(5日現在)
(連絡先) ☎03(5978)2751 FAX03(5978)2777
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。



第388号 2022年4月15日(金)
(通巻第587号)
全日本年金者組合中央本部
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人 杉澤 隆宜 月刊1部100円(組合費を含む)
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

ロシアよ ウクライナ侵略やめて

よみがえる東京大空襲、あの苦難の日々

全日本年金者組合は春の「仲間づくり月間」に4月を準備・助走期間に、5月から6月末日まで次のような目標で取り組みます。

片手に署名用紙
片手に加入書

①新加入者の期待目標は、100人以上の支部5%以上、100人未満は10%以上です。②支部は1000支部へ。都道府県本部は1支部以上、年間2支部以上結成をめ

ざします。③「年金者しんぶん」は全国平均60%以下の都道府県本部は全平均以上をめざします。④全労連共済は全項目で目標をたて、全支部で分所を立ち上げます。3月1、2両日、300人以上の10都府県本

5・6月 仲間ふやし月間

4月は助走・準備期間

退職者の加入促進



仲間ふやしを誓いあった10都府県会議

「退職者紹介ネットワークづくり運動」を生かして、退職者・退職まじかの人への声かけ、交流会など具体化を進めています。千葉県本部では地域労連役員の加入を進めるとともに地域へのチラシ宣伝や相談活動で新加入者が出ています。

生活や文化、地域づくりなど要求実現と組織拡大を結び、「いつでもどこでも誰にでも」、加入を働きかけましょう。



「戦災孤児を作り出す戦争を今すぐやめて」と訴える永田さん(左)と河合さん(右)

逃げまどう子らに我が身重ね

ロシアのウクライナ侵攻によって民間人、子どもたちまで大きな犠牲を強いられています。年金者組合員の榎本喜久治さん(東京空襲犠牲者遺族会会長)たちも参加している、戦争中の空襲などで被害を受けた民間人への救済を求めている全国空襲被害者連絡協議会(全国空襲連)は、東京大空襲があった3月10日の国会前での宣伝など「戦災孤児を作り出す戦争を今すぐやめて」と訴えています。

家も両親も失い 他人の家を転々

永田郁子さん

永田郁子さん(86)は小学校3年生の時に東京大空襲で両親と3人の姉を失いました。そのことを疎開先の新潟で知ったのは5月。終戦になってからも親もなく焼け野原になっ

た東京には帰れません。愛知県の祖父の家には3カ月しかいられず、生き残った兄が学校に通っていた金沢の下宿先、東京に帰ってからは兄が男子寮暮らしになったので同居できず、兄の友人宅、恩師の家などを転々

としました。一時はホームレス状態に。

空襲被害に背向ける日本政府

「どうにか中学校を出て全寮制の看護学校に入られて、やっと落ち着いた生活になりました。卒業後は看護師寮で暮らし始めたから、疎開に出た日から結婚するまで、私には家庭生活はありませんでした。」

母と弟失い 父は瀕死の大やけど

河合節子さん

3月10日の宣伝に防空ずきん姿で参加した河合節子さん(83)は、家族より一足先に茨城のおじの家に疎開して空襲を逃れましたが、母と2人の弟を失い、父は耳が片方なくなるほどケロイドが残っています。

「戦争だったから死のうと生きようと自己責任、我慢して当たり前」と、空襲被害者への補償を行う『空襲被害者救済法』に背を向け続ける政府の姿勢を問います。

国の使命は医療、年金、教育など国民のいのちを守ることです。軍事費を増やし続け戦争できる国をめざす政治の転換が、今求められています。



▼外務大臣がウクライナの難民を政府専用機で連れ帰った。

▼クルド人はじめ、シリア人、ロヒンギャ(ミャンマー)など故国では政府や自警団によって危害がくわえられると、日本に逃れてきたのに、保護どころか、入管による「強制送還」に脅かされている人が少なくない。

▼難民保護の難民条約には加入しているのだが、実行しないのは日本政府の「裁量権」。

2017年、1万人以上「難民申請」したのに認められたのはたったの28人。「難民と偽って、「黄金のジャパン」に稼ぎに来たのだろう」と判定する。

▼国際的な約束(条約)を実行せず、憲法の理念は無視して、40年も前の最高裁判決を根拠に「裁量権」を乱用。難民の命と人権を奪い、社会保障を破壊して国民の命も脅かす。人の道に背く政府を許してなるものか。